

05 もう一つのセンター試験・漢文

奈良女子大学附属中等教育学校 国語科 谷本文男

昨年度私は、「04 もう一つのセンター試験・漢文」と題する文章を書いて、奈良県国語文化会・会誌「まほろば」に発表した。センター試験国語・の漢文の問題文を用いて、問い・選択肢は、実際のセンター試験とは別の問題を作成したものである。その際、最も苦心した点は、選択肢の長さである。すべて、同じ長さにそろえるか、等差数列になるように工夫した。

本年度も同じことを試みた。「まほろば」に発表すると、できあがりか春以降になることと、人の目に触れるのが奈良県内に限られるので、ウェブ上で公開することにした。一種の「遊び」と受け取ってもらえれば幸いである。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で、返り点・送り仮名を省いたところがあ

る。)

鮑叔固はうしゆくもこ已ヨリニA識ルニ管仲ヲ於微ナリシ時ニ。仲相ハ齊ニ、叔薦レ之ヲ也。仲既ニ

相タリテ、内ニ修メ政事ヲ、外ニ連ヌ諸侯ヲ。桓公ク每ニ質ス之ヲ鮑叔ニ。鮑叔曰ハク、

「公ハ必ズ行ニヘト夷吾之言ヲ。」叔B不惟薦仲、又能ク左ニ右スルコト之ヲ如シレ此クノ。真ニ知

己也。

及ビ仲寢レ疾ニ、桓公詢以ニ政柄ノ所ヲ屬スル、且ツ問フ鮑叔之為レ人ト。

対ヘテ曰ハク、「鮑叔ハ君子也。千乘之國モ、不レ以ニ其道ヲ、予レ之ヲ不レ受ケ也。

雖^モ然^リト、其^ノ為^レリハ人^ト好^レミテ善^ヲ而^テ惡^ム。惡^ヲ已^ハ甚^{シク}、見^レバ一^ニ惡^ク、終^身不^レ忘^レ、
 不^トレ可^ニカ^ラ以^テ為^ス一^レ政^ヲ。仲^不二^幾ト負^カ一^レ叔^ニ乎。不^ルレ知^ラ丁^レ此^レ正^ニ所^ニ以^テ護^ルニ^リテ
 鮑叔之短^ヲ一^レ而保^ツ乙^ニ鮑叔之令名^ヲ甲^也。叔之知^レ仲^ヲ世知^ルモ之^ヲ、孰^カ知^ニ仲^之之^ヲ深^キコト如^ク一^レ耶。

曹参^微ナリシ時、与^ニ蕭何^一善^シ。及^ヒ三^何ノ為^ニル宰^相ト一^レ、与^レ参^隙アリ。何^且レ死^推レ
 賢^性参[。]参^聞キテ亦^趣ヤカニ治^メレ行^ヲ、「吾^且ニト^二人^リ相^ト一^レ。」使^者果^シ召^スレ参^ヲ。
 参^又属^ニセラルルヤ其^ノ後^相ヲ一^レ、悉^ク遵^ニヒテ何^ノ約^束ニ一^レ、無^シレ所^ニ变^更スル一^レ。此^ノ二^人ノ事[、]
 与^ニ管鮑^一相反^スルモ、而^実ハ相^類ス。

(張燧『千百年眼』による)

(注) 1 鮑叔……春秋時代の齊の重臣。管仲との交友関係は「管鮑の交わり」として知られる。

2 管仲……齊の宰相。

3 微時……身分の低いとき。

4 桓公……齊の君主。管仲の補佐により、春秋の五覇の一となる。

5 夷吾……管仲のこと。

6 千乘之国……兵車千両を出すことのできる大国。「乘」は兵車を数える単位。

7 曹参……前漢の第二代宰相。

8 蕭何……前漢の初代宰相。

9 隙……すきま。仲たがい。

10 治レ行……旅行の支度をする。

11 約束……とりきめ。法令。

問1 二重傍線部 ㄱ の「相」のうち、他と異なるものが一つある。選べ。

仲相齊 仲既相 為宰相 且入相 実相類

問2 波線部 a「悪」と同じ意味で用いられているものを次の ㄱ のうちから一つ選べ。

嫌悪 善悪 悪事 悪癖 醜悪

問3 傍線部 A「識ニ管仲於微時一」、C「仲不ニ幾負一レ叔乎」の意味として最も適当なものを、次の各群の ㄱ のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

A 識ニ管仲於微時一

管仲の知り合いには身分の低い人間しかいない。

管仲の身分の低い頃のことをよく知っている。

管仲を知っていたのは身分の低い頃だけだ。

管仲を身分の低い頃からよく知っている。

管仲は身分の低い人間だと知っている。

C 仲不ニ幾負一レ叔乎

管仲はどんな仕事でも鮑叔の力に頼っているのではなからうか。

管仲はほとんど鮑叔を裏切っているようなものではなからうか。

管仲はあらゆる点において鮑叔にかなわないのではなからうか。

管仲は鮑叔と同じくらい優れた点が多くあるのではなからうか。

管仲は鮑叔をほとんど憎むようになっていたのではなからうか。

問4 傍線部B「不惟薦仲」の返り点の付け方と書き下し文の組み合わせとして最も適当なものを次のうちから一つ選べ。

不二惟薦レ仲 惟だに仲を薦むるのみならず

不二惟薦仲一 惟だ薦むるは仲のみならず

不レ惟薦レ仲 惟だならずして仲を薦め

不二惟薦仲一 惟だ薦むるは仲ならず

不二惟薦レ仲 惟だには仲を薦めず

問5 傍線部Dの内容の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

鮑叔が管仲を助けるために、桓公につねづね口添えしていたことを、管仲は知っていて感謝していたことは世の中に知られていない。

鮑叔が大国を治める才能があることを、自分の地位が脅かされることを恐れて、管仲が隠していたことは世の中に知られていない。

鮑叔が不得手な政治に関わって、名誉を傷つけることのないように、管仲が配慮していたということは世の中に知られていない。

鮑叔が見舞いに来ないのを恨んで、管仲は後任として桓公に推薦しなかったという隠された事実は、世の中に知られていない。

鮑叔が融通の利かない堅物であるということ、管仲が桓公にひた隠しにしていたということ、世の中に知られていない。

問 6 傍線部 E の平仮名ばかりの書き下し文として最も適当なものを、次の 〃 のうちから一つ選

べ。

しばらくしせんとするやけんをおしたださんのみ
かつしせんとしけんをおすにただにさんなるかな
かつしせんとするをけんをおしおもへらくさんか
まさにしせんとしけんをおすにおもへらくさんか
まさにしせんとするやけんをおすにたださんのみ

問 7 問題文の趣旨として最も適当なものを、次の 〃 のうちから一つ選べ。

管仲と鮑叔のことと、蕭何と曹参のことは、対照的な交友のあり方であるが、見習うべき代
表的なものとして描かれている。

管仲と鮑叔のことと、蕭何と曹参のことは、一見反対に見えるけれど、根底において共通す
るものがあると述べられている。

管仲と鮑叔のことと、蕭何と曹参のことは、ともに友情のあり方としてどう考えるかと、読
者に問題が投げかけられている。

管仲と鮑叔のことと、蕭何と曹参のことは、見方を変えると逆に見えてしまうという、人間
関係の例として挙げられている。

管仲と鮑叔のことと、蕭何と曹参のことは、互いに相手のことを十分理解した理想的な人間
関係の例として紹介されている。

解答

問 1 問 2 問 3 A C
問 4 問 5 問 6 問 7

解説

問1 「相」の字の使い分け。 「は」は「大臣」を表す。首相の「相」である。 「は」は助字の用法。「あ

ひ」と読む。「相」にはこの他に「そうず」と読んで、「人相を見る」という意味もある。

問2 熟語を音読みしてみればわかる。 のみ「悪」の読みが「ヲ」で、他は「アク」。「ヲ」の読みの時は「にくむ」という意味。「アク」と読むときは「わるい」という意味。

問3 センター試験の問3と同じような趣旨の問題を別の箇所を設定した。

A 「述語…目的語…補語」という構造、「…ヲ…ニ」という読みが読みにくい。「微時」は注を参照。

C センター試験では「負」のみを読みの問題としてあった部分。選択肢は、「負」の意味内容で変化を付けてある。その意味ではセンターの出題と基本的には同じ。

問4 本年度のセンター試験では、返り点・書き下し文の出題はなかったので、ここで設定した。ただし、短い部分なので返り点の変化はあまりつけられない。累加の句法で、「ただに…のみならず」が読めるかどうかのポイント。

問5 センター試験の問5とほぼ同じ。ただし、傍線部は後半部だけにし、問いかけの仕方を少し変えた。

問6 本年度センター試験にはなかったタイプの問題。すべて平仮名で書き下し。「且」が再読文字の「まさに…(んと)す」か「かつ」か「しばらく」かを見分ける。返り点がついているので、再読文字であるとすぐに分かる。そして、「ただ」と「のみ」の呼応。

問7 内容的には、センター試験の問6とほぼ同じ。センター試験では全体の結論部分に傍線を引いて設問になっていたが、問1で「相」を見分ける問題に一部利用しているので、装いを変えた。